

## 課題

- 読書バリアフリー法の公布・施行**  
読みに困難のある人々に、アクセシブルな電子書籍等が提供されることが基本理念
- 通常の小中学校には、読み書きに著しい困難を示す児童生徒:2.4%**  
→合理的配慮を提供する必要がある。
- マルチメディアDAISY図書**  
→**アクセシブルな電子書籍等の一つ**  
読書バリアフリー法の理念に則り、読みに困難のある児童生徒に対して、地域図書館や学校図書館がマルチメディアDAISY図書を提供することが必要



## 事業のねらい

### 目的1

地域の図書館において、①図書館員等への研修の実施、②図書館における「音声教材コーナー」の設置による地域への音声教材の啓発に取組み、地域の図書館員及び地域住民へ音声教材を普及させること

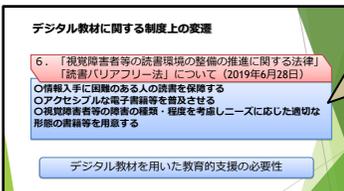
### 目的2

小中学校の学校図書館において、学校司書が学校に在籍している読みに困難のある児童生徒に対してマルチメディアDAISY図書を製作・提供するモデルを構築すること

## 主な実施内容

- ①大阪府内の公共図書館員等への研修の実施  
研修テーマ：読みに困難のある子どもの実態  
－その背景と音声教材について－
- ②大阪府内図書館における「音声教材コーナー」の設置
- ③小中学校の学校司書に対する音声教材の製作支援

### ①大阪府内の公共図書館員等への研修の実施



支援の背景となる法律に加え、読みに困難のある子どもへの支援事例や文部科学省が推薦する音声教材6教材を紹介した。

### ②大阪府内図書館における「音声教材コーナー」の設置



音声教材の説明の様子

図書館2館において、計4日間にわたり、マルチメディアDAISY図書や音声教材6教材を、ノートパソコンやタブレット端末を用いて、地域住民、学校教員等に説明した。

### ③小中学校の学校司書に対する音声教材の製作支援



製作講習会の実施後、月に1回程度、小中学校に訪問し、学校司書に対して、音声教材の製作支援を実施した。中学校では、生徒の児童書のマルチメディアDAISY化の取組を支援した。

## 成果

- ①**公共図書館員等への研修の実施**  
計110名の参加があった。研修後にアンケートを実施・分析したところ、読みに困難のある子どもの支援について以前より、興味・関心が深まった対象者が多かった。
- ②**「音声教材コーナー」の設置**  
図書館2館で計175名の参加があった。参加者の中には、小中学校の支援学級担当などが含まれており、タブレット端末やそれらで利用できるアプリ等を用いた支援の実際を伝えることで、学校や家庭で活用してみろといった感想を得られた。
- ③**学校司書に対する音声教材の製作支援**



小学校社会科副教材をマルチメディアDAISY化  
令和4年度以降に富田林市立の全ての小学校で活用予定



小学校の学校司書から依頼を受けて、中学校の生徒が児童書をマルチメディアDAISY化する取組の体制整備を行う。

### まとめ

- 研修等を通して、読みに困難のある子どもの読書バリアフリー化の啓発につながった。
- 学校図書館等を中心としたマルチメディアDAISY図書の製作モデルを構築した。

## 課題

- ・ 図書館の障害者サービスの充実
- ・ サービスを行う職員の資質の向上
- ・ 図書館協力者や一般県民への広報
- ・ 潜在的な利用者の読書環境整備



## 事業のねらい

- ・ 図書館が行うべき障害者サービスの把握
- ・ 各図書館の機能を知り、連携に繋げる
- ・ 視覚障害者等への支援法を学ぶ
- ・ 音訳技術の向上
- ・ 障害者サービス用資料に触れ、図書館での導入・新規利用のきっかけを作る

会場参加者 のべ **163名**  
 動画視聴者 のべ **786名**

携帯型OCRマルチプレイヤー「ブレイズET」  
 視覚障害者向けトーキングカメラ「SeeingAI」  
 「Envision AI」  
 ウェアラブルデバイス「Orcam My Eye 2.0」  
 などの最新機器を体験

## 実施内容

- ・ 実技による音訳技術指導
- ・ 視覚障害以外の読書困難者支援者による講演
- ・ 異なる立場の図書館勤務者によるパネルディスカッション
- ・ 読書バリアフリー法とその基本計画の説明
- ・ 音声読み上げ機等の障害者サービス用機器の紹介、体験

### 講座写真



(資料展示)



(音訳技術指導)



(パネルディスカッション)



(読書バリアフリー法解説)



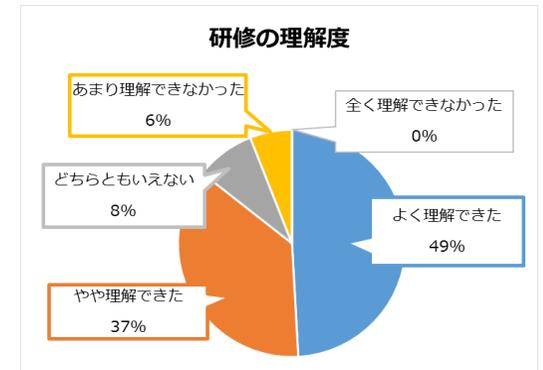
(最新の障害者サービス用機器の体験会)

## 成果

アンケート回答等から以下の成果が見られた

- ・ 音訳者の音訳についての疑問の解消、音訳技術の向上に寄与した
- ・ 視覚障害以外の読書困難者の理解に役立った
- ・ 異なる図書館の役割を把握することで、連携の足掛かりとなった
- ・ 各図書館での障害者サービス用機器導入の参考になった
- ・ 障害者サービスの指針となる法令と基本計画について把握できた

研修の理解度について、各研修の合計をグラフにした(未回答除く)



「よく理解できた」「やや理解できた」が86%となり、受講者に合った内容であったことが伺える